

松井清さんに聞く「癌克人の話」

今回は、余命半年の末期ガンから、入院もせず、通院と自宅療養で生還をした松井清さん(63)をご紹介します。自らガンを克服した人「癌克人」を名乗り、ボランティアで患者さんへのアドバイスをしています。手術・抗ガン剤・放射線というガン治療三種の神器に頼らず、五体満足で生還した人間がいることを、ひとつの情報として発信していきたいとホームページを立ち上げました。

URL <http://www.iibai.com/matsui/>



Happy Talk

ガンを治すのは自分自身です

松井さんは、末期のガンだったそうですが、

6年半前、57歳のときに体の不調から総合病院の泌尿器科へ行ってみると「末期の前立

と思ったとき、強烈に「生きたい」と思いました。どうせ死ぬなら自宅です、入院を拒否しました。

そのころ、ラッキーなことに、娘がロマリ

真つ黒になっている状態と、それが消えた現在です。

これほど大きなガンが消えることがあるなんて、初めて知りました。

す。星野式ゲルソン療法を取り、肉、塩、砂糖、油脂を抜きまし

た。そして、薬剤、サプリメント(アガリクスや鯨の軟骨、キチンキトサン、ビワの種な

はっぴートーク

析、洞察、決断、実行していったのです。の決断は「オール・ア・ナッシング」で「ちよつと失敗しちったなあー」では済まされないので。自分の命がかかっているですから。

ガンは個人個人で祝が違いますから、分にとってどうなのという判断が一番難しいところでした。そんな時、失敗した情報うまくいったアドバイスは、非常に貴重でした。ですから、私が生かされているのは次に自分の体験を伝えるためではないかとっています。

ガンを克服できた一要因は何でしょうか。

第一には「治さな」という強い意思。そして家族の協力だと思えます。そして「生きたい」という積極的な思いで、情報を集めることです。

最近では、第2の療法を積極的に探せ「セカンドオピニオン」が推奨されていますが